

その方は私に言われた。「人の子よ。わたしに反抗する国民に遣わす。」

エゼキエル書 2章3節

バビロン捕囚により、エルサレムはバビロンの支配下にありましたが、まだ滅んではいませんでした。その捕囚の地でエゼキエルは神のみ言葉を語るように命じられたのです。

主はイスラエルを「反抗する国民」と呼びます。イスラエルの民は主に聞き従わないのに、自分たちの願いは聞いてくださると考えていたのです。特に、バビロンにいる捕囚の民は、エルサレム神殿の不滅を信じ、即時帰還という楽観的なことを考えていました。エゼキエルが立てられる前年、

わたしはあなたをイスラエルの民に、

預言者ハナヌヤは、二年のうちに捕囚は終わると告げます。イスラエルの民は自分に都合のいいメッセージは聞くが、自分に不都合なメッセージは聞き流していたのです。

主の御心は、神の民が主に聞き従い、主の教えに生きることです。もし預言者が人々の頑な態度にひるんで語らなくなれば、神の御心は伝えられないのです。ですから、神はエゼキエルに「彼らが聞く聞かないに関わりなく・語れ」と命じておられるのです。神が預言者を遣わすのは、神

の民に対する神の忍耐と憐れみを表すものです。エゼキエルに与えられた言葉は審判の言葉です。しかしそれは「蜜のように甘かった」のです。何故なら神の怒りの背後には神の愛があるからです。神は滅ぼすためではなく、救うために裁きをされるのです。

矢内原忠雄はエゼキエル書の講解で「自分がひとかどの人間で、何かをやるとうとう時には、神は私どもをお用いにはなりません・・・神の栄光を見て自分が空しくされた時、神は大きな使命を我々に自覚させてくださる。有限な人間が神の言葉を食べるとはそういうことです。」と記しています。主のことは味わい、聞き従う者とされるように祈りましょう。

【報告 消息】

・新年聖会 報告

11日、蒲田教会に講師の松下先生ご夫妻をお迎えし、シオン6教会をインターネットで繋ぎ、同時にYouTubeでの配信も行いながら開催しました。コロナ禍で主会場の蒲田教会にはほぼ集まらない状況があり、各教会も地域ごとの対応になりました。しかし、インターネット越しに各教会の様子を見、声を聞けて、遠くに離れていても心が一つであることを実感しました。

松下先生も異例の状況にありながらも、情熱に満ちて福音を語ってください、とても励まされました。

15日現在でYouTubeの視聴回数は300回を超えており、多くの方が用いてくださっていることを覚えて感謝します。

自由に集まることができないう状況が続きますが、主が私たちと共にあって支えてくださることを心に留めて進みましょう。離れてはいても、お互いのために祈りましょう。

《各教会での出席者数》

37名 献金額38,210円

《YouTube視聴回数》1/15現在

339回

・荻野牧師は、本日(17日)が49歳の誕生日です。これからの生活と働きにも主の助けと導きがあるようにお祈りください。

■礼拝出席者数 報告(1/10)

第一礼拝 13名

第二礼拝 12名

小学科礼拝 4名

小2 中1 高1